

令和6年度 学校評価のまとめ



<評価基準について>

○ 教員、学校評議員

各項目について、5段階で評価

- 『5』…十分達成している
- 『4』…おおむね達成している
- 『3』…達成していない部分が多い
- 『2』…取り組んでいるが達成が難しい
- 『1』…具体的な取り組みができていない

○ 保護者

各項目について、5段階で評価

- 『5』…達成されている(十分に取り組んでいる)
- 『4』…おおむね達成されている(取り組んでいる)
- 『3』…達成されていない部分がある(取り組んでいない部分がある)
- 『2』…あまり達成されていない(あまり取り組んでいない)
- 『1』…達成されていない(取り組まれていない)

○ 児童生徒

各項目について、5段階で評価

- 『5』…よくあてはまる(そう思う)
- 『4』…ややあてはまる(どちらかといえば思う)
- 『3』…あてはまらないところがある(どちらとも思わない)
- 『2』…あまりあてはまらない(どちらかといえば思わない)
- 『1』…あてはまらない(そう思わない)

I わかる授業づくりについて

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒の実態に応じた個別最適な授業を行い、基礎的・基本的事項の定着を図ることができているか。	3	6	1		
②	学校は、児童生徒の思考力、判断力、表現力を育成するために対話と共同による学びを推進することができているか。	3	4	3		
③	学校は、児童生徒の探求的に学ぶ力を高めるために ICT 機器の活用や地域資源との連携を行うことができているか。	4	6			

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が、行っている授業は、児童生徒が各教科での理解を深めたり基礎的・基本的事項を習得できたりする授業になっているか。		○			
②	学校が、対話と協働による学びを推進してきたことは、児童生徒が主体的に考え表現する力を高めることにつながっているか。	○				
③	学校がICT機器の活用や県立博物館等の利用を進めてきたことは、児童生徒が探求的に学ぶ力や生涯学習への意欲を高めることにつながっているか。		○			

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校では、一人一人の特性や学習進度に配慮した授業が行われている。	2				
②	学習プリントやICT機器の活用等により、より分かりやすい学習のために工夫がされている。	2				
③	学校では、主体的に考え、表現する力を育てる授業が行われている。	2				
④	タブレット端末の活用や持ち帰りにより、自分で調べたり、興味をもって学習したりするなど積極的に課題に取り組んでいる。	1		1		
⑤	お子さんは、毎日学校生活を楽しみに登校している。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	先生は、分かりやすく授業を教えてくれる。	2				
②	先生は、プリントや、実験・実習、パソコンなどを使って具体的に教えてくれる。	2				
③	先生は、分からないときには、分かるまで教えてくれる。	2				
④	分からないことがあった時、分からないと言える。	2				
⑤	私は、勉強や学校が好きだ。	1	1			

○考察及び今後の対応等について

わかる授業づくりに関しては、全体的に高い評価であった。学校での様子や懇談、通知表等から本校の取り組みを十分に理解していただいているものと推察できる。

教員はさまざまな工夫を行いながら、「わかる授業」の実践に努めていることがわかる。今後も、それぞれの児童生徒の実態を十分に考慮し、理解の特性に合わせた内容の精選や展開の工夫、ICT機器の効果的な活用などを行いながら、よりわかる授業づくりに努めていくことが重要だと考える。

2 豊かな心と健康な身体について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒が互いに協力する態度をもち、個性を発揮して活動できるような交流及び合同学習を実施することができているか。	3	5	2		
②	児童生徒は、自らの病気や障がいを理解しながら、自他の尊厳と健康を守り、それらを尊重して行動できるようになってきているか。	3	3	4		
③	学校は、児童生徒の自他の個性と多様性を尊重し行動する態度を育てることができているか。	4	6			

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が集団での学習を積極的に取り入れてきたことは、児童生徒が互いに協力する態度をもち、個性を発揮して活動することにつながっているか。	○				
②	学校は、児童生徒が自らの病気や障がいを理解し、自他の尊厳と健康を守り尊重して行動できる教育活動を行っているか。	○				
③	学校は、児童生徒の人権を守るため、多様性を尊重した教育を進めているか。		○			

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	様々な体験的な活動によって、視野を広げ、自己肯定感が育っている。	2				
②	地域等との交流及び合同学習によって、社会性やコミュニケーション能力が育っている。	1			1	
③	自身の病気や障がいについての理解が促され、健康な生活を尊重した安心・安全な学校生活が送れている。	2				
④	学校は、道徳教育を充実させ、善悪の判断やルール、儀礼、生命を尊重する心が育っている。	2				
⑤	体育の授業や休み時間等に身体を楽しく動かし、心理的な安定が図られている。	1	1			

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	友達に思ったことを話したり、伝えたりできる。	2				
②	もっと友達がほしいと思う。	2				
③	友達とのかかわりで困っていることや悩んでいることはない。	2				
④	自立活動でどんな活動をしているかわかる。	2				
⑤	自分の病気や苦手なことが分かったり、上手にできるようになったりしたことがある。	1	1			

○考察及び今後の対応等について

様々な面で経験や体験等に不足さの感じられる本校の児童生徒にとって、地域との交流及び合同学習や校外での体験学習は、社会性や自他の尊厳を育成するために重要なものである。今年度も昨年度に引き続き、中学部の生徒が年間をとおして盛岡青松支援学校とオンラインで合同学習を行うことができた。

しかし、わかる授業づくりに比べると、教員の評価が全体的に低い。病状等による様々な制限がある中で有用性や必要性について十分な検討は必要ではあるが、今後も意図的、計画的に実施していく必要がある。

一方で、児童生徒の評価は全体的に高い。これは、教員の日々の指導が児童生徒の理解や意欲向上につながっているからだと考えられる。ただ、項目②は2名とも「5評価」であることを鑑みると、積極的な交流及び合同学習の機会を様々な教科等の中で設定していく必要があると考える。

3 自立や社会参加について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒が社会性を身に付け、また、課題を解決しようとする態度を育成するために体験的な活動を充実させることができているか。	3	5	2	1	
②	学校は、児童生徒が望ましい勤労観、職業観をもつことができるような職場体験や社会体験を行うことができているか。	1	1	8		1
③	学校は、児童生徒の自己実現に向けて主体的に学ぶ態度や能力を育成するため、キャリアパスポート等を活用して、児童生徒の目標や活動などを継続して記録することができているか。	3	4	3		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が体験的な活動を充実させてきたことは、児童生徒の社会性と自己肯定感を高めることにつながっているか。		○			
②	学校が職場見学や社会体験を実施したことは、児童生徒が働くことの意味や大切さを実感し、職業への関心を高めることにつながっているか。		○			
③	学校が医療機関や福祉事業所等の関係機関と情報交換や打合せなどの連携を行ってきたことは、児童生徒の適切な指導や支援につながっているか。	○				

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	お子さんの進路について、家庭で考えるために十分な情報提供がされている。	2				
②	職場見学や社会体験を通して、お子さんの職業についての興味関心が高まってきている。	1		1		
③	各種懇談や連絡帳のやりとり等により学校での様子が十分に伝わり、悩みや心配なことは、学校に相談できている。	2				
④	学校は、病院や福祉機関などとの連携が十分にとれている。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	竹田校の友だち以外にも友だちがいる。	2				
②	家の近くの学校や別の学校に行きたいと思う。				1	1
③	学校生活でやってみたい学習や活動がある。		1			1
④	将来の進路について具体的に考えている。	1			1	

○考察及び今後の対応等について

特に、教員の評価が全体的に低く、また、保護者の回答を見ても適正な職業観を育成するための学習を系統的、計画的に実施していく必要があると考えられる。病弱特別支援学校である本校では、昨今の感染症拡大の影響により他の学校に比べて職場体験等の実施自体が難しい状況が長く続いてきたが、感染状況も落ち着いてきた現状を踏まえ、次年度からは、教育課程に職場見学や職場体験に関する内容を改めて明記し年間計画にも組み込み、小学部6年間、中学部3年間を見通した系統的な活動内容を考え、計画的に実施できるよう努めたいと考える。

さらに、児童生徒の結果から、今後も児童生徒一人一人の充実した学校生活や将来の希望の実現に向けて児童生徒自身が進路や将来について具体的に考えることができるような授業や指導を実践していく必要があると考える。

4 地域との連携・支援について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒に対し連続性のある適切な指導と支援を実施するために、医療機関や福祉機関と情報を共有することができているか。	3	6	1		
②	学校は、病気療養児の連続した学びを保障するために、地域の小中、高等学校と連携することができているか。	3	6		1	
③	学校は、医療と連携しながら、病気療養中の児童生徒に対して教育相談や学習支援を実施することができているか。	4	6			
④	学校は、地域の小中、高等学校のニーズに応じて教育相談や研修会を実施することができているか。	3	7			

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が小中学校と連携して学習支援を行っていることは、病気療養児の連続した学びを保障することになっているか。	○				
②	学校は、病気療養中の高校生に対する教育相談や学習支援を実施する上で、高等学校と連携ができてきているか。		○			
③	学校は、地域の小中、高等学校等のニーズに応じた教育相談や研修会を実施することができたか。		○			

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が、病院や小中学校と連携し、入院生の学習支援を行っていることを知っている。	2				
②	学校が、病気療養中の高校生に対する相談や学習保障の支援を行っていることを知っている。				1	
③	学校が、各種教育相談など、学校外での支援にも積極的に取り組んでいることを知っている。	2				
④	竹田校のWebページにおいて、児童生徒の活動の様子等を広く発信していることを知っている。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	竹田校のホームページに活動の様子が載っていることを知っている。	1	1			
②	竹田校のホームページを見たことがある。	1				1

○考察及び今後の対応等について

教員、学校評議員、保護者、児童生徒の評価は基本的に高い状態である。病棟へのパンフレットの配付・掲示、webページの充実等、本校の取組や役割について情報発信に努め、教育相談やセンター的機能を活用した学習支援、入院生への学習支援等に全職員で取り組んできた結果と推察される。また、病院関係者、入院児童生徒の原籍校との連携が適切に行われ学習支援としての相談機能を十分に果たせたものとする。さらに、夏季休業中に研修会や地域の学校のニーズに応じた教育相談等を実施したことで、相談支援や研修支援の回数増加につながったものとする。昨年度に引き続き、遠隔教育に係るICT機器貸出しも実施しており、今年度は3件、貸出しを行った。前年度から比べると件数が増えており、情報が広がっていることを実感した。

一方で、評価の低い、または、活動そのものを知らないために無回答の項目もあったため、必要な情報を整理して発信することや教育活動の中でもホームページを見る場面を設けるなどして、今後も適切な情報発信に努めていく必要がある。

5 安心・安全な学校づくりについて

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒の安全・安心な生活を守るために、防災・防犯体制の強化や学校事故の未然防止等を行うことができているか。	6	3	1		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、児童生徒の安全・安心な生活を守るため、防災・防犯体制の強化と学校事故の未然防止等を十分に行っているか。	0				
②	学校は、教職員の事故や不祥事の発生を0にすることができているか。	0				

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	災害時並びに緊急時の対応についての取り組みは十分である。	2				
②	学校は、いじめを許さない学校づくりに取り組み、いじめを未然に予防し、早期発見、早期解消に努めている。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校生活は楽しく、満足している。	2				
②	学校生活で困っていること、心配なことはない。	2				
③	先生には何でも話することができる。	1			1	
④	困っていることをお父さんやお母さんに相談している。	2				

○考察及び今後の対応等について

全体的に評価が高く、児童生徒が安心して安全に学習に取り組める環境を全職員で意識して取り組むことができていると結果と考える。今後も現在の取り組みを継続し、安心・安全な学校づくりに取り組んでいきたいと考える。

一方で、児童生徒の回答をみると項目③に「2評価」があることから、日ごろから、児童生徒の実態や発達の段階等を踏まえながら適切にかかわり、良好な関係をつくることに努めながら「何を話してもよい」「自分から話したくなる」ような環境づくりに全職員で取り組んでいく必要があると考える。

～ おわりに ～

今回は教員、学校評議員、保護者、児童生徒の評価に大きな差異は見られなかった。学校としての取り組みが保護者や児童生徒等から理解を得られていると考えられる。このことから、引き続き学校目標の適切な設定と達成を目指していくことが必要だと考える。今年度の評価を基にして課題を整理し、適切に改善を図り全職員で共通の意識をもって今後も取り組んでいきたい。

全体的に評価が低かった「自立や社会参加について」の分野においては、組織的にキャリア教育を実施していくことが必要である。学校だけにとどまらず、積極的に地域とのつながりを深め、協働的、探究的な学びを充実させることや保護者の理解や協力を得ながら児童生徒の自立や社会参加につながる教育活動を展開していきたい。

全体をとおしてみると「具体的な成果について不明」という理由から評価が下がっている項目が複数あり、また、教育活動自体を知らないために無回答の項目もあったため、活動の成果を分かりやすく伝えていくための方法等について検討していく必要があると考える。

教員一人一人が常に竹田校で果たすべき役割を認識し、全職員で検討・協議・共有を十分に行いながら学校全体で教育活動のさらなる充実に向けて取り組んでいきたいと考える。